



優秀賞 (総合部門)

タイトル

記憶の「けいしょう」

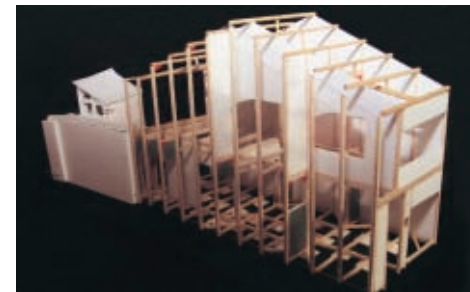
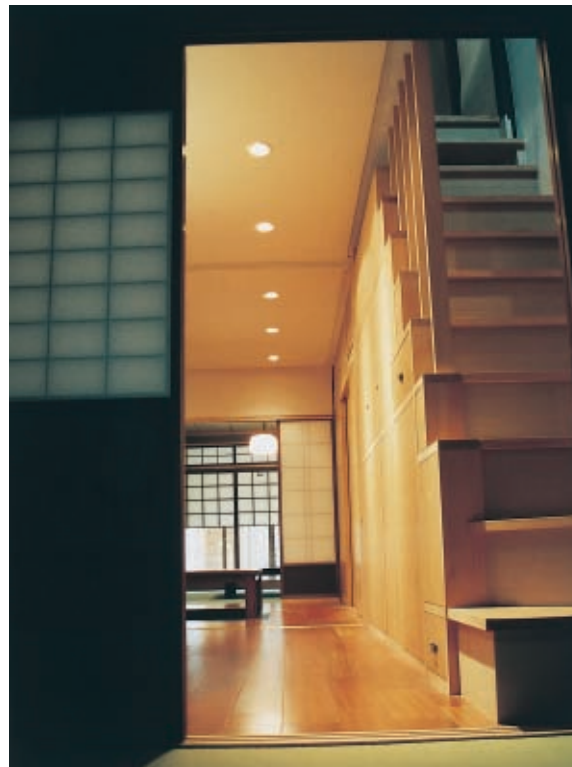
タイプ

持家一戸建

講評

上位賞検討作品。昭和の増築部を含む京都の町家。緻密な設計で現代の生活にも違和感のない空間と性能にまとめられている。意匠も美しい。風や光が抜けていく時、一瞬歴史の彼方へタイムスリップするようで心地良い。

リフォーム前後の写真



リフォームの動機/設計・施工の工夫点/施主の感想 など

京都市の中心部、中京区寺町通りに面した100年以上を経た町家の構造補強を含めた改修工事である。2間半に満たない(約4,050)間口にもかかわらず奥行き15間(約27,000)という「うなぎの寝床」といわれる平面形式を有し、ハンリを通して外部にできる玄関と奥庭と蔵をもった生活方式や、現在では入手しにくいガラスや庭石・違い棚・井戸や建具・照明器具等、大正時代からの和洋折衷的ともいえるファサードは京都という歴史が積層した町の豊かな住文化を伝える財産である。さらに、この家で生まれ、嫁ぐまで育った施主にとってこの家は両親の

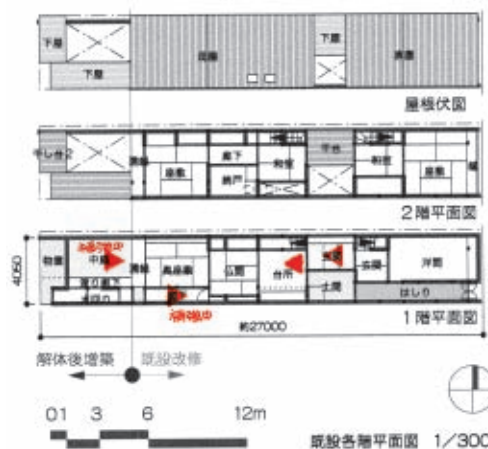
思い出とともに青春時代の記憶そのままをよみがえらせてくれるアルバムであり築100年を超える部分と昭和に入ってから改修と思われる部分があり家の歴史・生き様も感じさせてくれる。改修にあたっては、以下の原則に従って計画・施工が行われた。

- ①老朽化した部分の補修。②構造補強 ③施主が日常使用する部屋(台所と仏間、便所・脱衣・浴室・洗濯)は全面的に改修し現代のライフスタイルに適合させる。④現在入手し難いガラスや建具、照明器具等は極力保存する。

特に配慮した住宅性能： 限界耐力計算法による耐震補強(仕口ダンパー十荒壁パネル)、現在の生活スタイルに対応した設備の更新。独人暮らしの高齢者のための防犯性能の強化とバリアフリー化、材料の選択段階での施主とのコラボレーションを重視し、住宅への愛着観の創出を図る。

データ		構造/築後年数		在来木		造/		100年	
所在地	京都府京都市	構造/築後年数		在来木		造/		100年	
該当工事面積	156.15 m ²	該当部分工事費	2,700万円						
居住者構成	1人(大人<15歳以上)	1人子供							
設計者	伊熊昌治建築設計事務所	担当者	伊熊 昌治						
施工者	(株)熊倉建匠	担当者	熊倉 敏夫						

リフォーム前



リフォーム後

